

組織目標評価報告書（令和6年度）

部局名:

附属図書館

部局長名:

甲賀 研一郎

目標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<p>①教育領域</p>	<p>教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</p>
<p>リアルとバーチャルの利点を活かしたハイブリッドな図書館機能の強化のため、来館を前提とした支援と、デジタルライブラリーによる支援を併用した各種学修サポートを実施する。デジタル・非デジタルを問わず、学生の学修に必要な図書館資料の安定的な整備に努める。教員と連携し、Target2025対応を見据えたりテラー教育の内容改善に取り組む。</p>	<p>●グループ学修室収容定員の見直しを行い、来館者の学習環境改善を行った。学生・館長懇談会を今年度も開催し、重要なステークホルダーである学生と館長が直接対話する機会を確保した。学修サポートとして、対面及びオンラインにより図書館利用方法の案内や文献検索に係る講習会等を計55回(中央館43回、鹿田9回、植物研3回)開催し、延べ1,648人(中央館1,083人、鹿田430人、植物研135人)が参加した。また、講習会のスケジュールをHPに掲載し、これらをオンデマンドでも利用できるようMoodle上で動画コンテンツを公開した。今年度は2本(中央館1、鹿田1)の動画を新規作成して計21本(中央館15本、鹿田4本、植物研2本)の動画コンテンツを提供し、967回(4~2月、中央館742回、鹿田211回、植物研14回)のアクセスがあった。</p> <p>●今年度は4.6%係数による予算減や開館時間維持のため、資料費が厳しい状況となったが、出版会予算等の見直しにより資料費の確保に努めた。非来館型利用の利便性を鑑み、可能な限り電子書籍を購入し、1,403点をあらたに整備した。また、ソーシャルインパクト創出支援事業に採択され、教員と連携して共修のための多読資料等の整備を行った。</p> <p>●教育推進機構の教員と連携し、Target2025に対応する既存教材の案内を行うと共に、新カリキュラムに合わせて既存教材の修正や新規作成を行った。</p>
<p>②研究領域</p> <p>※研究領域での課題と本年度の目標を達成するための取組についてご記入ください。</p>	<p>研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</p>
<p>③社会貢献(診療を含む)領域</p> <p>学生、教職員、地域住民など多様な利用者によるイノベーション・commons(共創拠点)化を目指し、展示会やセミナー等を開催し、交流の場としての活性化を図る。開催にあたってはリアルとバーチャルを適宜活用し、地域を超えた交流を促す。 本学の学術研究成果のオープンアクセス化や、貴重資料のデジタル化、岡山大学出版会の活動を通して、本学の教育・研究成果を広く社会に向けて発信する。</p>	<p>●学内教職員等および学外の関係者・機関等と連携協力し、公開講座(11月)、池田家文庫絵図展(11~12月)、知好楽セミナー(10月、12月)、池田家文庫こども向け岡山後楽園発見ワークショップ(6月、2月)、館内展示企画(12企画)を実施開催し、図書館利用者の交流促進を図った。特に、今年度の公開講座は、池田家文庫史料の電子化促進を記念して著名な講師を招き定員を大幅に増やし、140人の参加者に図書館が取り組む貴重資料のデジタル化と活用を広く紹介した。また、これらイベントの関連資料や館内所蔵資料の展示企画を開催した。</p> <p>●転換契約によるオープンアクセス出版枠(令和6年度契約分)で、本学研究者の学術論文203報がOA出版された(3月末実績)。令和7年度に向け新たにElsevier社との転換契約を締結、計357報のOA出版枠(令和7年度契約分)を確保した。本学貴重資料のデジタル化については、オープンアクセス加速事業により池田家文庫マイクロフィルム103リールのデジタルコンバートおよび鹿田分館所蔵「古医書集成」19点のデジタル化を実施したほか、国文学研究資料館「国書データベース」に池田家文庫マイクロフィルムデジタルコンバート画像約4,000点を追加(2月)、東京大学史料編纂所のデータベース「Hi-CAT Plus」で池田家文庫史料デジタル画像約2,300点を新規公開(3月)等を実施した。今後も引き続き、デジタル化および公開を推進する。</p>
<p>④管理運営領域</p> <p>全学的な内部質保証体制のもと、附属図書館の点検・評価を行う。評価センター及び大学経営戦略会議の検証を受け、資料整備及び利用者支援サービスの維持・向上に取り組む。 災害などへの備えを強化し、館内を安心安全な空間として整備する。 事務のDX化を進め、効率的な業務遂行や迅速な情報共有の体制構築を図る。</p>	<p>●岡山大学内部質保証体制のもと、附属図書館運営委員会にて、自己点検・評価を行った。「注意が必要」とされた貸出冊数や電子書籍閲覧回数の減少については、利用拡大のため館内で広報の強化を行った。また「全学における検討課題」とされた図書費減少については、厳しい予算の中ではあるが、出版会等予算の見直しを行い資料費の確保に努めた。</p> <p>●オンライン防災講演会の実施や館内巡視員の変更と防災訓練の見直し等を行い、職員の意識向上や安全衛生体制の整備を図った。</p> <p>●各種会議やワーキンググループ活動にTeamsを利用することで、資料のPDF化のほかチャット機能の利用によりDX化を推進した。</p>
<p>⑤センター・機構等業務</p> <p>全学的なデジタル・キャンパス化の一翼を担うため「総合知」の創出・活用を支える学術情報の統合利用環境の整備に係る取組(全学戦略的経費)を継続、利用者の声を取り入れつつ、図書館DXを推進する。 「第4期中期目標期間における電子ジャーナル等の整備方針」(令和2年12月25日学長裁定、令和6年3月18日改正)に基づき、研究大学に相応しい規模の電子ジャーナル及びデータベースの安定的な提供に努めるとともに、効果的な転換契約を進める。 関連部署と連携しオープンアクセスに対応した研究支援環境の整備を進める。</p>	<p>●学内外の学術コンテンツを統合的に検索できるサービスとして導入したディスカバリーサービスについて、講習会の開催とその動画のMoodle公開など利用拡大に係る取組を実施した。また、利用者へのアンケートを実施し、今後より効果的な広報や講習会実施時期を検討した。</p> <p>●令和7年度の契約よりElsevier社の契約を5分野のサブジェクトコレクションへ変更するとともに転換契約へ変更しトランザクションなしで見れる論文の拡大と共に転換契約枠の拡大を行った。</p> <p>●オープンアクセス加速事業に採択され、リボジトリシステム等の改修、海外の先行大学等の調査、貴重資料等の資料電子化環境の整備、URAとの連携によるQ1論文に対するAPC支援制度の試行により95報のOA化を実施した他、既契約のSpringerの転換契約を96報に拡大した。併せて中央館、鹿田分館の入退館ゲート、自動貸出し返却装置の機能アップや生成AIの導入等を行いOAが進むことで増える業務へ対応するため業務効率化を図った。また、価値創造ナレッジマネジメントオフィスにOA推進体制検討コアを設置しOA推進体制の検討を行いOA推進ユニットを設置した。</p> <p>●本日より措置された学術情報流通活性化経費で雇用されたURA1名がEJ等データ分析に従事し転換契約の参考データ作成や内製での生成AI構築などの図書館のDXに寄与したほか、図書系研修への参加や他大学との情報交換も行った。</p>

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5~1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。